



出エジプト記15章

モーセの歌

出エジプト記 15

1 そこでモーセとイスラエルの人々は、この歌を主にむか
つて歌った。彼らは歌って言った、**○主はむかつて私
は救おう。**

2 彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた。
**主は私の力また歌、私の救となられた、
彼こそ私の神、私は彼をたえる。**

3 彼は私の父の神、私は彼をあがめる。
主はくさきと、その名は主。

4 彼はバロの戦車とその軍勢とを海に投げ込まれた。
そのすぐれた指揮者たちは**紅海に沈んだ。**

5 大水は彼らをおおひ、彼らは石のように漕に下った。
6 主へ、あなたの右の手は力をもつて栄光にかぎゆく、
主へ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

7 あなたは大いなる威光をもつて、
あなたに立ちむかう者を打ち破られた。
あなたが怒りを発せられると、
彼らは、わらのように焼つくさまだ。

8 あなたの鼻の息によって水は積みかさなり、
流れは堤となつて立止。

9 敵は言った、『私は追ひ行き、追いついて、
分捕物を分かち取るう、
私の欲望を彼らによつて満たそう、
つるぎを抜こう、私の手は彼らを撈ほそう』。

10 あなたが息を吹かれると、海は彼らをおおひ、
彼らは鉛のように、大水の中に沈んだ。
11 主よ、神々のうち、だれがあなたに比べられようか、
だれがあなたのように**(聖)にして榮えあるもの、
ほむべくして恐るべきもの、
くすしきわざを行うものであろうか。**

12 あなたが右の手を伸べられると、
地は彼らをのんだ。
13 あなたは、**あがめられた民を思ふをもつて導き、
み力をもつて、あなたの民を聞いて震え、
14 もう一つの民は苦しみに襲われた、
ペリシテの住民は苦しみに襲われた、
15 エドムの酋長らは、おどろき、
モアブの酋長らは、わななき、
カナンの住民は、みな逃げ去った。
16 恐れとおのきとは、彼らに臨み、
み國の大いなるゆえに、彼らは石のように黙した、
主へ、あなたの民の通りすぎるまで、
17 あなたは彼らを導いて、
あなたの嗣業の山に植えられる。
主へ、これこそあなたのすまいとして、
みずから造られた所、
主へ、み手によつて建てられた**聖所**、
18 主は永遠に続べ治められる。**

14:13-14
14:17-18 Ps 33, 40,
戦争巨海に榮えと表す 96, 98
その時主は王であらせり。 新しい歌

Ps 78:52-55
羊の群羊の如くに養ひ出し。

#1
主は王であらせり。

11-13 ↑ 1-5
vs 神々 vs 勝利。 カア子。
← 14-18 → 6-10 → 王。 榮え。
↓ vs 国々 ↓ 滅び。
偶像國の滅び
#2

聖書の
榮え。 おもう 民・家。
聖者の住み

海は満ち モーセの歌
エジプトを出た
主は王であらせり

出エジプト記の15章、モーセの歌を分析しました。アブラハムの契約とダビデの契約というものが…アブラハムの契約がエジプトから出て、申命記、ヨシュア記のところまで。ダビデの契約と言っているのが、第1歴代誌、第2歴代誌のところまで。特に歴代誌のほうで見えていました。

その流れの中で、エジプトから出ます。十戒をもらって、天幕を造って、ヨシュアを通してカナンの地に入る。これは、申命記の終わりのところに歌があります。ペリシテ、古いイスラエルということですね。このシロ、エフライムの天幕が捨てられて、契約の箱が脱出して、ダビデの天幕が造られて、それでソロモンの時に神殿が建設されるという、この脱出から約束の地へというこの流れ、同じような流れですね、その出だしのところです。エジプトから連れ出された時の最初の歌。これが出エジプト記の15章です。

主に向かって歌おうという歌なのですが、主に向かって歌う歌というのは、96篇、98篇、33篇、40篇にある新しい歌を歌うという歌があります。これは、新しい歌なのですね。モーセがエジプトから連れ出した新しい時代が来たという新しい歌。最後

は黙示録にありますけれど、この新しい歌の最初の歌、これが、出エジプト記15章のモーセの歌です。黙示録でモーセの歌と子羊の歌と最後の歌も書かれています。

このモーセの歌がエジプトから出たところですから、「パロの軍勢を海に投げ込みました。」というところが、ここに書かれています。この歌を歌った後に、ミリヤムが応答します。民の代表としてミリヤムが歌う歌も、出だしのところが、「主に向かって歌え。主は輝かしくも勝利を収められ、馬と乗り手とを海の中に投げ込まれた。」この「馬と乗り手を海の中に投げ込まれた」というところで終わって、何か不思議な感じがするのですが、これは14章のところで約束してくださるのですね。このあと、あなたがたを連れ出しますというところ。この14章17節と18節、「エジプト人の心をかたくなにします。パロの軍勢、戦車と騎兵を通して、私の栄光を現そう。パロとその戦車とその騎兵を通して私が栄光を現すとき、エジプトは私が主であることを知る。」というように言われていますので、戦車と騎兵が海の中に投げ込まれた、これが栄光の時なわけですね。敵が裁かれた。勝利の時ということですので、この言い方がこの歌の出だしになっています。「私は主である」というところから始まるということです。

そして、右の手、右の手、大水の中に。右の手が敵に勝ちますというのが、次にあります。ここにも(12節)右の手があります。神々のうち。神々と戦っていたわけです。パロの神々。そして、その国々と戦うことになってしまいますけれど、御力を持って救って、聖なる住まいに導いた。国々を倒して聖所に導いた。主は王であると。「主は永遠に統べ治められる」と書いてあるところが、「主は王である」と。

他の箇所では、「とこしえに王である」という訳になっていたりしますが、主は王である」という詩篇もいくつもあります。その最初ですね。出エジプト記15章。先ほどの96篇、98篇。96、97、98、99というセットの詩集があります。そこで、「主は王である、主は聖である」ということが結論の宣言のようになっていますが、その詩篇の終わり方は、出エジプト記15章のモーセの歌を連想させるもの。新しい歌は、主は王であるというところで終わっているようなものです。

それで、段落を分けました。1から5、6から10、11から13、14から18と分かれています。というのが、ここに書いてあります。

1から5で主が勝利を収めます。敵が減びるのが6から10のところ。11から13は神々に対して。14から18は国々に対してということで、前半1から10のところは、王である主が勝利を収めて力ある栄光を現した。その王は敵を滅ぼして、栄光を現した。11からのところは、神々に対して、私のような神はいない。その神様は民をあがなって聖なる住まいに導く。14からは、国々に対して戦って勝利を収めて、民を買い取って聖所に住まわせる。民と住まいが再建される。この時初めて造られたということだと思いますけれど、民をエジプトからあがなって約束の地に住まわせる。民を神様の相続地に住まわせる。これが後半です。

そこで神様は聖である、聖い神様だ。神々と違う。国々と分けてくださる。聖別してくださる聖なる栄光が現わされたということで、こちら前半(1-10)が、王としての力ある栄光。後半(11-18)は民をあがない出して聖なる住まいに導いてくださる王の聖なる栄光というように分析しました。

4つに分けましたので、この4つのつながりで、他に大切なところは、この2つ。1からと11から。6からと14からというように考えました。この2つ(1-5,11-18)が最初のababのaの部分ですね。ここは「私は主である。他に神はいない」という十戒の1番目。次(6-10,14-18)が敵が減ぼされ、異邦人の国々が勝つわけですが、偶像の国々、偶像を

信じる国々に対して戦っていますので、偶像の国々が滅びますということで、これは、十戒の2番目という段落になっていると思います。1,2,1,2と。

それで、全体として、エジプトから連れ出した私は主である。ほかに神はいない。偶像の国々は滅びるということを具体的な歴史を通して現してくださった、そのエジプトから連れ出されたというところで、1番目、2番目の命令が特に成就している。王が力あり、その王が民を連れ出しましたというところが、この15章の全体の流れだと思います。